



今村 定一

質問

大和神楽を地域の伝統芸能として守り伝えていく現状を見て、無形文化財に指定している町として、もっと積極的にいかわり人材の育成に努める考えがないか。

教育長答弁

大和神楽は古来から魚沼神社の神事の奉納の舞として受け継がれてきている経緯から、地元の人達の係わりの中で保持継承されるのが最も良いことと考えている。町として何もしないことではない、要請があれば出来る限りのサポートはしていく。

質問

保存会から毎年事業計画・収支予算・決算等の報告を受けている中で、保存

会の活動は承知しているはず。新年度予算の補助金は削減されている。熱意を持って活動している人達の気持ちに逆行するのではないか。

教育長答弁

行財政改革を進めている現状ではやむを得ないとご理解いただきたい。補助金を出して他には何もしない、ということでは無く、活動状況を見ながら前向きに対応していきたいと考えている。

雪国館及び絵画の今後の展開と方策は

質問

「雪国」を題材にした絵画14点を購入して4年、民俗資料館のリニューアル後2年が経過する中で入館者数も伸びず、3階部分の



第11回越後湯沢童画展大賞受賞作

歴史民俗資料館は町の観光スポット的にはその時々々の気象条件等で入館者数は左右されやすいこともある。文化勲章受章者のことが絵画のアピールに生かされなかったことは指摘

「雪国の風土と生活」の資料展示も改装後内容が貧弱になりすぎた。また絵画「雪国」の作者に、2名の文化勲章受章者が含まれていながらもかわらず集客に生かされず、対外的にもアピールされていない。ひとつの建物の中で、川端文学の美術品の収蔵展示と、雪国の歴史・風土を紹介する施設がマッチングするのか。この現状をどう見ているのか。

教育長答弁

の事実として今後生かして行きたいと思う。新年度は観光を重視した中で、職員を増やし、展示配置等を考え、観光と教育両面に対応出来るよう創意工夫しながら来館者の増加に努めたいと考えていく。また美術と民俗資料の雑居的改善策については今後慎重に検討して将来どうするかの方角は出したいと思う。

童画館構想と童画展継続の意義

質問

湯沢に深いつながりを持つ川上四郎氏の童画を基に始めた公募童画展、回を重ねること11回を数えるまでになりました。これまでに取得した作品400点あまりの

作品の将来と、今後も継続する童画の公募の定義づけをどのように考えて行くつもりなのか。川上四郎氏の原画の収蔵の方向が現在どのような状況なのか、また美術館構想との絡みで、童画展の将来をどのように考えているのか。

教育長答弁

全国童画展は今や湯沢を全国に発信し湯沢の知名度を上げるに寄与しています。作品は町内外の施設に展示して童画の町として有効活用しています。応募数も増加し作品としても向上し、応募者からも童画展を高く評価して頂いています。童画美術館は川上四郎氏の絵を無くして建設はありえませぬので、川上家とはそれを前提で良い関係を継続しています。核心部分については協議は中断しています。美術館構想も童画展の継続する中で一定の方向を出さなければならぬと考えています。前向きに協議検討を重ね方向を示したいと思っております。

地域の伝承文化の

支援策

一般質問